

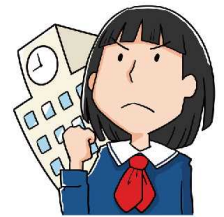
開倫塾で、トップ校・難関校100%合格を目指そう、受験1年前、受験2年前、受験3年前から、受験生としての自覚をもって、一度学んだことの復習と定着、読解力の育成に励もう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：大学入試、高校入試、中学入試で、トップ校・難関校に100%合格を果たすにはどうしたらよいのですか。

A：大学入試、高校入試、中学入試でトップ校・難関校と呼ばれる学校は、しっかりした力がないと、入学が困難といわれています。



Q：では、どのように勉強したらよいのでしょうか。具体的に、わかりやすく、お教えてください。

A：(1) まず第一に、受験1年前、受験2年前、受験3年前からしっかり勉強をすることです。受験学年になってから受験勉強をしても、時間不足で、勉強し終えない場合が多いからです。大学入試、高校入試、中学入試でトップ校・難関校に100%合格を果たしたければ、受験1年前、受験2年前、受験3年前からしっかり勉強することです。

Q：しっかり勉強するとは、どういうことですか。

A：(1) 「受験生としての自覚」をもって勉強することです。

(2) 自分は、何のために受験勉強をするのかを、はっきりと自分自身で納得、理解し、本気で勉強することです。

(3) 何のために、大学、高校、私立中学校・公立中高一貫校に進学するのか。進学して何を勉強するのか。その学校を卒業した後にどうしたいのか。学校卒業後にどのような人生を歩みたいのか。自分の力でしっかり考えることです。

○いろいろな学校を見学する、いろいろな職業について調べる、いろいろな生き方をしている人の本を読んだり、話を聞いたりする。やりたいことがあれば、少しずつでもやってみる。行きたいところがあれば、計画を立て、保護者と相談の上、出かけてみる。



Q：「受験生としての自覚」が少しもてたら、そのあとはどうしたらよいのですか。

A：3つあります。

- ①「効果の上がる学習方法」を身に着ける、
- ②「学習時間」を確保する、
- ③「読解力」を身に着ける。この3つです。



Q：一つ一つ説明してください。まず第一の「効果の上がる学習方法」を身に着けるとはどのようなことですか。

A：(1) 勉強は、ただ行えばよいというものではありません。「どのように勉強すれば、よい結果が出るかを、工夫する」ことが大切です。



(2) 一番大切なのは、「予習」です。これから学ぶことを、一通り全部、音読すること。意味のわからない語句は、辞書で調べること。計算や問題は、ノートに全部解いてみる。何がわからないかをはっきりさせて、授業に臨むこと。これが「予習の意味、目的」です。

(3) 次に大切なことは、授業をきちんと受け、「復習」をすることです。「復習」とは、一度学んだことを、もう一度、ゆっくり声を出して読み直すこと。計算や問題は、もう一度解き直すこと。よくわからないことがあったら、徹底的に調べること。そして、全教科の「まとめノート」を作ることです。

○「復習」は何のためにするか。一度学んだことを、スミからスミまでよく「理解」するためです。



(4) よく「理解」したことも、時間が経つと忘れてしまいがちです。どうしたら、一度学んだことをしっかり身に着けることのできるのか。「定着」を図るための「3つの練習」が効果的です。

①一度学んだことは、スラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習、「音読練習」をすること。そして、大切なことは、全部覚えてしまうこと（暗唱）。

②大切な語句や文章は、正確に書けるまで書く練習、「書き取り練習」をすること。

③なぜそのような解答になるかがよく理解できた計算や問題は、何度も繰り返し解く練習をして、パッパッパッと条件反射で正解が出るまでにする練習、「計算・問題練習」をすること。

○そして、教科書や問題集、教材、まとめノートは、スミからスミまで全部覚えてしまうことです。

○この「3つの練習」を「定着のための3大練習」といいます。「定着のための3大練習」は「不可能を可能」にします。医学部を含め、トップ校・難関校合格を100%に近づけます。

(5) 大学入試、高校入試、中学入試でこれまでに出题された問題（過去問）を10年分、5～6回やり直し、全部理解し、スミからスミまで覚えてしまうことです。



(6) ①よくわからないところは、わからないところまで遡り、学び直すこと（遡及学習）。

②よくわかっているところは、1学年、2学年、3学年先まで、どんどん学び続けること（先学年先取り学習）。進学先の大学や高校、中学の内容をどんどん先取り学習すること。

Q：次に第二の「学習時間の確保」の仕方を教えてください。

A：(1) 大学入試、高校入試、中学入試など、トップ校・難関校の受験生は、「受験直前は、学校の授業がある日は1日8時間、学校の授業がない日は1日12時間」くらい勉強しています。



(2) 受験直前と同じくらいの時間、つまり1日8時間、12時間の長時間学習を、「受験生としての自覚」をもったその日からスタートすれば、100%合格が一気に近づきます。

(3) スタートは、早ければ早い方がよいと思われれます。

Q：最後の「読解力」とは何ですか。

A：(1) 大学入試、高校入試、中学入試は、問題文がどんどん長くなっています。また、全教科、例えば数学でさえ、問題文や様々な情報を読み解いて解答する出題が増えてきました。

(2) 問題文や様々な情報を、最後のページまで正確に読み解く力、「読解力」を身に着けていないと、試験時間内に解き終えないことになります。

(3) 「読解力」を身に着ける最も確実な方法が、「辞書・新聞・読書・図書館」に慣れ親しみ、「学習習慣」とすることです。



Q：最後に一言どうぞ。

A：(1) 例えば、塾長が3年間過ごした栃木県立足利高校の同じクラスから、医学部に6名進学しました。裁判官になったクラスメートもいました。

(2) なぜか。そのクラスを3年間担当した現代国語の倉沢先生は、代表的な作家の本は最後まで読むこと、気に入った作家の本はなるべく全集で読むことを、3年間言い続けました。それを、皆がよく実行したからだ、と、確信します。医学部進学者も含め、皆、よく本を読んでいた。正門の近くに小さな体育館くらいの図書館があり、クラスの皆は、時間があれば図書館に行き、本や新聞を読み、本を借りていました。読書こそが、トップ校・難関校合格を確かにする「読解力」を育てると実感しています。

(3) 同じクラスに、「信長の野望」や「三国志」というシミュレーション・ゲームを世に送り出した襟川陽一君（ペンネーム、シブサワ・コウ）もいました。襟川君は、読書もたくさんしましたが、世界史や日本史が大好きでした。高校の勉強は役に立ったねと、何年か前のクラス会で言っていました。ご参考まで。

